2025.11.30

NPOフォーラム だより No.119

NPO法人安房文化遺産フォーラム （共同代表：愛沢伸雄, 池田恵美子）
〒294-0045 千葉県館山市北条 1721-1　TEL&FAX：0470-22-8271
E ﾒｰﾙ awabunka@awa.or.jp　公式ｻｲﾄ https://awa-ecom.jp/bunka-isan/

会員・寄付募集中！ 年会費＝正会員 A:10,000 円（総会議決権あり）・準会員 B:2,000 円・法人 10,000 円
（ゆうちょ銀行口座：００２６０-１-９７３０７　名義 NPO 法人安房文化遺産フォーラム）

● 戦争遺跡の「赤山地下壕跡」が 再び臨時休壕のため見学中止！

1 年半の修復を経て 4/1 より見学再開していた「赤山地下壕跡」（館山市指定史跡の戦争遺跡）は、11/6 に一部崩落が見つかり、再び臨時休壕となりました。自治体による安全確認・補修のため、しばらく見学はできません。第一日曜のガイドサービスも中止となります。団体のスタディツアーガイドは、大房岬要塞群やハングル「四面石塔」などをめぐる行程で実施します。

赤山地下壕は真珠湾攻撃前から建設が始まったという証言があり、関東大震災後の地質調査をしたうえで、掘りやすく崩れにくい凝灰質砂岩（鏡ヶ浦層）を選定し、専門部隊により秘密裡に建設が進められた可能性が高いと考えられます。館山市教育委員会の解説では「終戦がさし迫った 1944 年より後に建設されたのではないか」としていますが、この機会に収集した資料を提供し合って協議をおこない、調査研究を深めたいと願っています。

＜当面のガイドスケジュール＞
12/20（土）10:00～15:00 陸上自衛隊第一空挺隊 13 名（座学・大房岬要塞群・安房神社）
12/26（金）16:00～17:30 明治大学付属中学高校 地学部 26 名（座学）
27（土） 8:30～15:00 〃 （掩体壕・海岸段丘・なたぎり・大巌院）
1/17（土）10:00～16:00 関根ジロー県議後援会 20 名（掩体・かにた・座学・大巌院）
3/8 （日）10:00～12:00 パルシステム労働組合 8 名（座学・大房岬要塞群）
3/28（土）10:30～15:30 千葉建築士会 40 名（座学・四面石塔・小原家住宅・掩体壕）

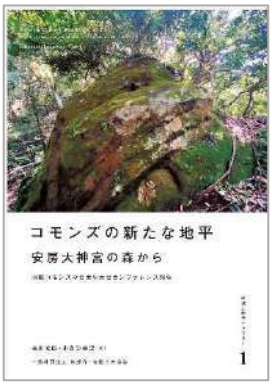
創刊案内（羽鳥書店）

『大神宮の森へ 1』 ～ 土地に根ざした暮らしのための雑誌 ～ 年 2 回刊行

価格 2,750 円（税込） 安房大神宮の森コモンプロジェクト編

房総半島最南端の「安房大神宮の森」を整備し再生する活動紹介と、古の人の営みの知恵を知り、森や海、土や木や水とともに生きる楽しさと面白さを発掘する。コモンズの守り方や、土中環境の視点と有機土木の方法を紹介する。価格のうち 1,000 円は安房大神宮の森コモンプロジェクトの活動支援に充てられる。

執筆者：高田宏臣／愛沢伸雄・池田恵美子（NPO 法人安房文化遺産フォーラム共同代表）／伊沢正名（糞土師）／鴻池朋子（アーティスト）／込山敏郎（サンドカフェ店主）／小森はるか（映像作家）／佐藤良明（翻訳家・エッセイスト）／中島岳志（政治学者）／中村桂子（生命誌研究者）／前田宣明（北条文庫店主）



『コモンズの新たな地平－安房大神宮の森から』 高田宏臣・小倉沙央里 著

価格 2,200 円（税込） 国際コモンズ学会世界大会カンファレンス報告

安房大神宮の森をもとに、森と海の関係、御神体としての磐座の意義、山の尾根筋から水源をとる知恵等、古の人の造作や工夫を知り、
コモンズ（共有財産）をつなぐ方法を探る。

＜創刊記念トークイベント＞

＊12/14（日）15:30～17:00 北条文庫（館山）
お披露目先行販売会＆高田宏臣ミニトーク
参加無料（店内の立ち見イベント）

＊12/25（木）19:00～ 紀伊國屋ホール（新宿）
「コモンズと有機土木」高田宏臣×中島岳志
料金 1,500 円（要予約・全席指定）

＜令和７年度文化庁 Innovate Museum 事業／和歌山県立近代美術館・全米日系人博物館 連携＞

「和歌山移民研究を軸とした国際交流事業」実行委員会に NPO フォーラムも参画

海を渡った漁師 千葉・和歌山・米国で共同調査

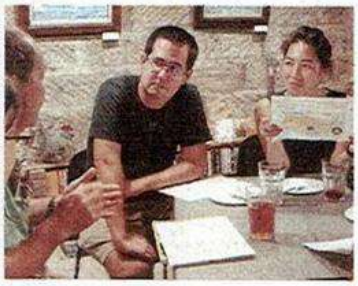
「房総アワビ移民」の歴史知って

19世紀末に南房総から米国カリフォルニアへ渡った「房総アワビ移民」の歴史に光を当てる調査が、日米共同で進んでいる。渡米したアワビ漁師たちの功績を発信する県内のNPO、多くの移民を送った和歌山県の研究者、移民の子孫が連携。それぞれの関係者らは8月末～今月、県南部で交流を深めた。共同調査の成果は来年2月、館山市などで発表される予定だ。（長屋文太）

懇親会で交流を深めた安房文化遺産フォーラムの会員と和歌山、米国の研究者ら

「曽祖父も同じ海を見ていたと思うと、感じるものがあった」。館山市内のカフェで今月3日、NPO法人安房文化遺産フォーラム（同市）が開いた懇親会。共同調査のために来日した全米日系人博物館（ロサンゼルス）の職員エバン・コダニさん(36)が英語で感想を語った。

共同調査は、文化庁が支援する「和歌山移民研究を軸とした国際交流事業」の一環。渡米画家を研究する和歌山県立近代美術館と、漁業関係の移民らを送り出した同県太地町などが2022年度に始めた。全米日系人博物館は24年度から参加。フォーラムは本年度から研究に加わった。



房総の移民の歴史に耳を傾ける、いずれも日系4世のクリステン・ハヤシさん㊨とエバン・コダニさん＝いずれも館山市船形で

ひ孫ら来日 曽祖父も見た海「感じるものあった」

㊤小谷源之助 ㊦小谷仲治郎（いずれも安房文化遺産フォーラム提供）

日系4世のコダニさんの曽祖父は、南房総市白浜町出身の小谷源之助（1867～1930年）。弟の仲治郎（1872～1943年）とともに「房総アワビ移民」のリーダーとして1897年、カリフォルニア州モントレーに渡った。米国の海に適したアワビの漁法を確立。アワビの缶詰工場を建設し、アワビステーキを紹介するなど、現地の食文化の発展に貢献した。

源之助は、モントレー日本人会の会長として、文化振興や交流事業にも取り組んだ。日本の文化人ら向けにゲストハウスを開き、画家の竹久夢二や政治家の尾崎行雄らが滞在した。

安房文化遺産フォーラムは、こうした歴史を広めようと活動している。愛沢伸雄共同代表(73)は「複眼的な視点で太平洋を通じた交流の歴史を明らかにできる」と共同調査に期待する。「小谷兄弟の歴史は地域で知られていないままだった。コダニさんらが今、アメリカから来てくれたことは大きな意義がある」と喜んだ。

8月31日～今月3日、和歌山と米国の関係者が館山市と南房総市に滞在した。小谷家の墓参りや、戦争遺跡巡りなどを通じ、地元住民とも交流。日系4世で全米日系人博物館の職員クリステン・ハヤシさん(43)は「米国では、日系人が来てから何をしたかという研究に偏っていた。日本側の視点を取り入れられることがうれしい」と話す。

ハヤシさんは「日系人はイノベーションを生み、アメリカ社会の一部をつくってきた存在だが、現地で十分に知られてない」と指摘する。移住当初から排斥運動に遭い、戦時中は強制収容所に送られた史実もある。「いとも簡単に民主主義が崩れてしまうことを示している。そうした歴史を学び、未来をつくる責任がある」と力説する。

共同調査の一行は今月、和歌山も訪問。10月にモントレーとロサンゼルスで、歴史家や日系人の子孫と交流する。来年2月5～18日に南総文化ホール（館山市北条）で調査成果を発表するパネル展を、同11日にシンポジウムを開く予定だ。

東京新聞 2025.9.29.

小谷源之助・仲治郎の実家「金澤屋」の墓参（南房総市白浜町根本）
南房総市と館山市を表敬訪問、それぞれの副市長・教育長とともに。

9/1～4 館山・南房総めぐり
9/4～8 和歌山訪問

本州最南端の潮の岬休憩所（串本町）には、オーストラリアへ渡り白蝶貝を採ったヘルメットダイバーの歴史を紹介する資料館と顕彰碑があります。

太地町には歴史資料室、移民画家の石垣栄太郎記念館などが充実しています。
同町の教育長と面談しました。

和歌山大学観光学部の移民研究室、和歌山市立図書館移民資料室、和歌山県立近代美術館を訪問し、共同調査。
和歌山県立紀伊風土記の丘、和歌山県立文書館、和歌山歴史教育者協議会などの皆さんと懇親会。

ロサンゼルスのサンピードロ地区には太地人会があり、今も絆で結ばれています。

右は和歌山出身の移民画家ヘンリー杉本がモントレーに近いカーメルハイランドで描いた作品。

10/1～8 訪米 カリフォルニア州 モントレー＆ロサンゼルス

房総アワビ移民が拠点としたポイントロボス。小谷家、共同事業者アーレンの子孫、ガイドグループとともに。　右はアーレンの墓所。

左は 小谷源之助の孫娘ミア＆キミ姉妹と、甥のエヴァン。母方の祖父で著名な移民画家・小圃千浦（オバタチウラ）の作品。

右は LA ターミナル島の和歌山漁業移民の子孫たちの会。

予告 **「移民がつなぐ太平洋まるごと博物館 ～ カリフォルニアと房州と紀州」**

＊シンポジウム　2026. 2/11（祝）　南総文化ホール 小ホール
＊資料パネル展示　2/5（木）～ 15（日）　〃　ギャラリー

Reort

第 67 回千葉県母親大会･第 31 回安房地域母親大会

安房地域実行委員長・齊藤陽子／事務局長：池田恵美子

11 月 9 日、南総文化ホール大ホールを会場に、第 67 回千葉県母親大会と第 31 回安房地域母親大会の共催で、おこないました。「戦後・被爆 80 年 今 平和の願い新たに、そして次世代に」をテーマに、参加者 503 名を迎え、そのうち 100 名以上は一般市民でした。今年は、安房の構成団体も 9 団体に増え、さらに 10 団体が連携を図り、ネットワークが広がりました。実行委員・スタッフは 43 名、男性や若手のママたちも活躍しました。皆さん、おつかれさまでした。大成功、おめでとうございます。

房州弁の憲法 9 条で幕をあけ、館山を舞台に香川京子さん主演で製作された映画『赤い鯨と白い蛇』を上映しました。監督は館山出身のせんぼんよしこさんで、世代の異なる 5 人の女性の生き様を通して、「私のことを忘れないで」「正直に生きる」「生命を大切に」というメッセージが伝わりました。

午後のオープニングライブは、愛と平和を歌う美地さんが代表曲『世界中のお母さんたちへ』と、ベトナムの結合双生児だったグエン・ドクさん作詞の曲『いつも僕の中に』を手話つきで披露されました。

続く地域報告では、NPO 法人安房文化遺産フォーラムが戦争遺跡と平和の文化を紹介しました。逆さ地図で日本列島の頂点にあたる館山には、航空戦略のために最前線の基地がつくられ、猛訓練後に出撃するとともに、戦争末期には本土決戦に備えて陣地や特攻基地が作られました。敗戦直後には本土唯一の直接軍政が敷かれ、その後「従軍慰安婦石碑」がつくられた地です。現在は多くの平和団体が訪れています。

そして記念講演は、ノーベル平和賞を受賞した被団協の事務局次長・児玉三智子さんをお招きしました。核兵器を巡る厳しい状況の中で、ノーベル賞選考委員長は「被爆者の遺産を受け継ぐのは、私たちすべての人間の責任である」とスピーチし、遺産とは伝える行動だそうです。児玉さんは核兵器のない社会を目ざして、7 歳で被爆した体験を語り継ぎ、全国を奔走しています。

これを受けて、「話し合いのひろば」では地元から、長崎の平和式典に参加した小学生と被爆二世の医師らが発言しました。「発言のひろば」では、千葉民医連・農民連千葉・平和遺族会・新婦人千葉県本部から活動報告と問題提起がありました。

1 日のプログラムに統一性があり、素晴らしい大会だったと感想が聞かれました。また NPO では、前日には松戸母親連絡会と年金者組合千葉県本部、翌日には浦安・佐倉・市川の母親連絡会のスタディツアーガイドをおこないました。

▷ インターネットラジオ「ホンマルラジオ／美遊空間」にて 千葉県母親大会がレポートされます。

＜ちよ媛の、あなたのそばに･･居させてください＞ 山本なぎさの『悠久の詩・遙かなる旅』

12/8 公開 ～ https://honmaru-radio.com/biyuukuukan_mainichi20251208nagisa/

NPO 安房文化遺産フォーラム会員で短大講師・画家の山嵜早苗さんはハンドルネーム山本なぎさ名義で、毎月 1 本 10 分間のインターネットラジオを放送しています。これまでも、池田恵美子さんが 2 回出演し「館山まるごと博物館」を紹介しました。

今回は、山本さんご自身が参加した千葉県母親大会 in 安房 について報告してくださいます。乞うご期待！

なお、12/8 公開日から 1 週間の視聴率がいいと、週間ランキング上位として発表されます。ぜひご視聴ください。

＜プロフィール＞ 34 年の小学校教員を経て、短大の子ども教育学科生活科で講師。教育論文で読売教育省最優秀賞を受賞。歴史教育者協議会会員。「悠久の詩」をテーマにインドネシアの仏教遺跡の石仏を描き続けています。

料金後納

ゆうメール

ＮＰＯ法人安房文化遺産フォーラム
〒294-0045 千葉県館山市北条 1721-1
TEL&FAX：0470-22-8271

赤山地下壕跡は 2025 年 11 月より休壕中です。詳細は会報1面参照。

戦後80年

戦跡をたどる 11

館山基地に巨大地下壕

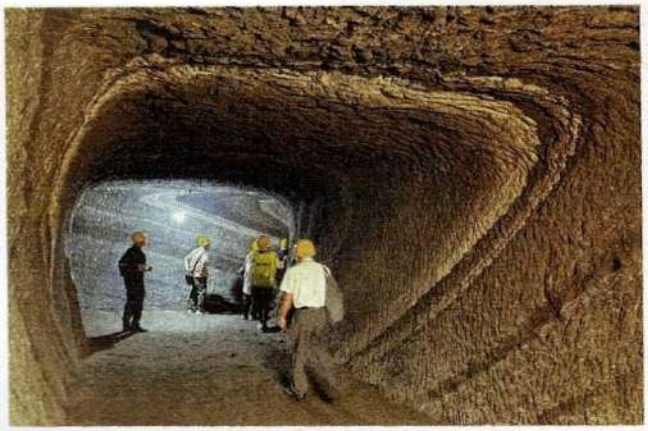
房総半島南端に位置する館山市は、帝都東京を防衛する要として早くから軍事施設が整備された。戦闘機を攻撃から守るための掩体壕や特攻艇「震洋」の基地跡など、戦争遺跡は47か所に上る。

中でも、赤山地下壕跡は総延長が1・6キロと非常に規模が大きい。海上自衛隊館山航空基地の南東側の裏山、標高60メートルほどの丘陵にある。壕内の無数のツルハシの跡は丁寧な工事を物語っていて、全国に残る他の大規模な壕のように、空襲の脅威が増す中、拙速に造った感じは受けない。

海自館山航空基地の敷地にはかつて、館山海軍航空隊基地(館空)があった。1923年の関東大震災で隆起し、浅瀬になった館山湾の一部を埋め立てて30年に設置された。海に突き出た基地は短い滑走路を備え、「陸の空母」と呼ばれた。空母艦載機のパイロット養成などにも使われた。

赤山地下壕のある丘陵はその昔、砂や泥などが堆積してできた砂岩や泥岩の海底が隆起してできた。壕は網の目のように張り巡らされた複雑な構造で、館空と隣り合うように建設された。内部には鮮やかな地層が浮き出ていて、バウムクーヘンの模様を思わせる。

壕は戦後長らく放置され、キノコ栽培に使われた時期もあった。だが、高校教師だった愛沢伸雄さん(73)が戦後50年を機に戦争遺跡を調べる中で、その価値に気づき、保存を呼びかけた。市は内部を整備し、2004年から壕の一部約250メートルを一般公開している。05年には壕全体を市の史跡に指定した。



赤山地下壕跡の内部には無数のツルハシの跡と、鮮やかな地層が浮き上がっている（7月11日、館山市宮城で）

赤山地下壕跡に入る見学者

開戦前に着工 機密部隊拠点か

◇

旧日本軍による大規模な地下壕は、松代大本営(長野市)などのように本土空襲の脅威が増してから建設されたものが知られている。

一方、赤山地下壕は、近くに住む100歳近くになる住民の話などから、太平洋戦争が開戦した1941年の真珠湾攻撃前には着工していたことがわかっている。

壕は上部に3、4階部分がある多層構造で、まさに「地下要塞」の様相だ。入り口近くには4気筒ディーゼルエンジンを設置した「自力発電所跡」と、変電所電気員の待機場所とされるくぼみがあり、奥には天井の高い横穴が並ぶ。

奥に尉官、佐官クラスの部屋と思われる空間があり、天皇の写真「御真影」を安置した奉安殿も確認できた。頂上へ抜ける巨大な円筒形の燃料庫縦坑跡も2本残る。館空に通じる可能性のあるトンネルは石材で封鎖されていた。

◇

防衛省防衛研究所に残されている「館山航空基地次期戦備施設計画位置図」には、壕の位置に「工作科格納庫」「自力発電所」「応急治療所」などの記載を確認することができる。

海上自衛隊館山航空基地（右）と、赤山地下壕跡がある丘陵（左上の林）（2015年8月撮影）

戦後間もなく、館山に上陸した米占領軍のカニンガム准将のリポートには、「完全な地下の海軍航空司令所が館山海軍航空隊基地で発見された。ここには完全な信号、電源、他の様々な装備が含まれていた」と記されている。

愛沢さんは調査・研究を進め、赤山地下壕には館空で行われていた「軍極秘の航空機開発・実験に関わる長距離無線通信など、機密性の高い部隊が置かれていた」と推定している。

愛沢さんは仲間とNPO法人「安房文化遺産フォーラム」を組織し、会員による壕のガイドを毎月第1日曜日に行っている。壕を訪れた人の総計は、この夏に42万人を超えた。

フォーラム共同代表の池田恵美子さん(64)は「赤山地下壕を考えるには、当時の航空戦略の全体像と館空の役割をおさえる必要がある」と指摘している。

（当間敏雄）